

1. 調査報告概要表

作成日 平成 21年7月17日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 2092400015
法人名	有限会社 平成
事業所名	グループホーム 道
所在地	長野県上伊那郡飯島町田切161 - 52 (電 話) 0265-86-8171
評価機関名	福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307 - 5
訪問調査日	平成21年6月30日

【情報提供票より】(21年3月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 5月 10日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	20 人 常勤 16 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 18.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	175,000 円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(3 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 87 歳	最低 76 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平澤医院、平澤歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

飯島町の町中から離れ、農家が点在する地域にあるこのグループホーム「道」は、広い敷地に平屋建て東西2ユニットが玄関・廊下でつながっている。そのため、それぞれは献立などは別々であるが、利用者が気軽にお茶や食事に往来したり、行事などで交流したりできる2つの大家族のようである。そして、職員はふだんから利用者一人ひとりの介護計画を援助目標に沿ってきめ細かくチェックして、意向や希望を活かすように努めている。そんな職員と一緒に献立を話し合ったり、一緒になって買い物に出かけたりしている利用者はとても明るい表情であった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価で指摘された自己評価の取り組みについては、今回職員全体で意義を話し合い、評価を実施して改善してきている。また、職員の研修についても、職員会で全員で介護についてのテキストを読み、地道に勉強を進めてきている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回は全職員で自己評価の意義を話し合い、評価を実施してきた。そして、グループホームから地域への発信が十分でないなどの改善点を話し合ってきた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議が年1回の開催にとどまり、理念・運営方針の説明、活動内容の報告だけに終わっている。今後、運営推進会議の内容を工夫し、定期的に開いて、その意見を活かしていくことが望まれる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族が来所するときや、電話がかかったり、かけたりするときに本人の生活の様子などを詳しく話している。そして、利用者の写真や葉書を送ったりして、定期的に様子を報告している。また、意見箱を設置したり、家族が来所するときなどを通して意見や要望などを直接聞いたりして、運営に反映できるように努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、職員が地域活動に参加している。利用者は地域の文化祭に作品を出展したり、どんど焼や花祭り、区民運動会に見学に出かけたりして楽しく交流している。また、中学校、海外協力隊、ボランティアなどの訪問を受けて交流を広げている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム道の由来となった『平らな道 急な道 狭い道 広い道 どんな道もあなたと いっしょ』という言葉を基に、「利用者の皆様と共にくらしをつくりあげます。地域の中で地域の皆様とくらしませす。輪、和、話を大切にします」という独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一緒に料理を作り、一緒に買い物に出かけ、利用者も職員もみんな一緒なんですという気持ちをもって、理念を大切に、日常生活の中で実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、職員が地域活動に参加している。利用者は地域の文化祭に作品を出展したり、どんど焼や花祭り、区民運動会に見学に出かけたりして楽しく交流している。また、中学校、海外協力隊、ボランティアなどの訪問を受けて交流を広げている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は全職員で自己評価、外部評価の意義を話し合い、評価を実施してきた。そして、グループホームから地域への発信が十分でないなどの改善点を話し合ってきた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が年1回の開催にとどまり、理念・運営方針の説明、活動内容の報告だけに終わっている。		運営推進会議の内容を工夫し、定期的に開いて、その意見を活かしていくことが望まれる。

グループホーム 道

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームから飯島町や駒ヶ根市の担当者と密に連絡が取れるような機会をつくり、訪問するようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が来所するときや、電話がかかったり、かけたりするときに本人の生活の様子などを詳しく話している。また、利用者の写真や葉書を送ったりして、定期的に様子を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、家族が来所するときなどを通して、意見や要望などを直接聞くことができるように努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職などで新しい職員が入ってくる際には、先輩の職員と一緒に支援を行うようにして、利用者へのダメージが軽くなるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には計画的に出席できるようにしている。また、職員会では「認知症介護の基本」というテキストを読み、内部研修を進めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上伊那圏域相互評価研究会に参加し、同業者と勉強会を進めている。また、同法人内のグループホームと交流して質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者が一日体験や見学を通して場の雰囲気に馴染めるように工夫したり、職員の家庭への訪問を通して相談を十分するように工夫したりしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者には昔の料理の作り方、味付けなどをよく教えてもらい、一緒になって作り楽しむことができると、職員は話してくれた。このように、利用者との多くの話を通して、支えあう関係を築くよう努めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>例えば、買い物などに行くときに利用者に希望を聞いたり、センター方式のシートを使ってアセスメントをしたりして、思いや意向の把握に努力している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族と一緒に、具体的な援助目標を立て、援助内容を話し合っって介護計画を作成している。</p>		<p>生活全般の解決すべき課題を「 」できるようにしたい」と、利用者自身の立場から見直すことを通して、さらにサービスの質の向上を期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の援助目標が毎日どのように実施されているかを利用者一人ひとりの「ケアプラン実施状況及び評価」で職員がチェックし、ケースカンファレンスでの介護計画の見直しに役立てている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に対して、病院などへの送迎など柔軟に対応できるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医に受診できるように支援している以外に、協力医と認知症の専門医にそれぞれ月1回、診察が受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者がだんだん重度化してきているので、家族や関係者との話し合いをもって対応できるようにしている。		重度化や終末期に向けた方針を共有するために、マニュアルを整備していくことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導などは小さな声でさりげなく声かけしたり、失禁したときなどには他の利用者に分からないようにしたりしている。また、個人記録などの情報管理は事務室で集中して行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者によっては毎日入浴したり、一人でのんびり散歩したりできるように個人のペースを大切にしている。また、マンツーマンで買い物に出かけたり、ドライブに出かけたりして希望にそった支援ができるようにしている。		

グループホーム 道

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	東・西ユニットそれぞれの献立表で、訪問調査日当日は、利用者が下ごしらえした山椒の味噌をつけた五平餅と、利用者が握った稲荷寿司で、話題が盛り上がり、にぎやかで楽しく食べることができた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回は入浴できるように配慮し、毎日希望があれば入れるようになっている。また、車椅子の利用者も2人介助で入浴できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	塗絵やパッチワークなどを作って地区の文化祭に出品したり、カラオケで歌を歌ったりしてそれぞれが楽しみ、気晴らしができるように支援している。また、東・西ユニットは玄関廊下でつながっているので、互いにお茶を飲んだり、食事をしたりして自由に行き来できるようになっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望を活かして、グループホームの周りの散歩を職員と一緒にしたり、町中の店に車で買い物に出かけたりしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は鍵をかけず、また、玄関は日中鍵をかけないケアに努めている。外に徘徊して探したことがあったが、地域の協力が得られることができた。なお、骨折後の処置ということで、家族の了解を得て身体拘束する時間がある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防法改正により、防火管理者を置くなど、徐々に災害対策の充実に向け取り組んできている。		避難訓練を年1回から年2回実施するように計画し、さらに防災対策を講ずるように期待したい。

グループホーム 道

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの摂取量を確認し、声かけをしたり、本人の好みに合わせたりして十分な量やバランスがとれるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	東西それぞれの玄関から廊下を通ると、広々したりリビング・ダイニングがあり畳の居間もあって見渡しもよく、利用者の笑顔が素敵な大きな写真やその時々のお花々に飾られ、居心地よく過ごすことができるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が前から使っていたベッドやタンスが備えられ、好みの配置をしたり、飾ったりして安心して過ごせるようになっている。		